BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

犬飼港跡

INUKAI MINATO ATO / INUKAI







周辺情報

ぶらり、散策。



丸一製菓 / まるいちの栗どら

昔ながらの製法でようかんを作りつづける老舗和菓子店。しっとりふわふわの「栗どら」のほか、さくら餅など季節のお菓子も人気です。

豊後大野市犬飼町犬飼 40
097-578-0110
営7:00～18:00 休不定休



仲町製菓 / 若鮎

客足と笑顔が絶えない、地域で人気の和菓子店。犬飼名物「若鮎」は繊細な皮とやわらかい白あんのあんばいが絶妙です。

豊後大野市犬飼町犬飼68-2
097-578-0128 P3台
営8:00～19:00 休日曜午後

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 https://bungo-ohno.com
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-1001（代表） FAX 0974-22-3361



おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809

豊後大野ジオサイトファイル

犬飼港跡（いぬかいみなとあと）

INUKAI MINATO / INUKAI

ひと、もの、賑わいの記憶。



大野川（おおのがわ）沿いに立ち並ぶ民家と、広くゆるやかな河岸（かがん）が印象的な風景。犬飼港は、江戸時代の明暦二年（1656年）につくられた川の港です。この地を治めていた岡藩主（おかはんしゅ）中川久清（なかがわひさきよ）公が、内陸部（現在の竹田市）にあるお城への交通の拠点とするため、もとあった小さな船着き場から港を移し、犬飼港を整備しました。お茶屋、お役所などが整備された町は、武士や商人であふれかえりたいへんな賑（にぎ）わいだったといわれています。

その後大正六年（1917年）に豊肥線鉄道（ほうひせんてつどう）ができ、川船交通（かわぶねこうつう）は終わってしまいます。しかし、今も残る商店街には、江戸時代の町並みがうっすらと残されています。

阿蘇の巨大噴火にうまれ、近代化に活用されて。

沈堕の滝を形成している岩石は、阿蘇火山の約９万年前の巨大噴火による火砕流によってもたらされたものです。この阿蘇から流れてきた火砕流が冷えて固まったものが、溶結凝灰岩です。冷えて固まる際に無数の縦方向の柱のようなひび割れ（柱状節理）が生じ、それらが水によって削られることで巨大な滝が形成されました。

沈堕の滝は古くから景勝地として知られるだけでなく、近代以降は大野川通船や水力発電などの舞台となりました。

① 大野川通船と魚道跡

明治時代になり、犬飼より上流での大野川通船が活発になりましたが、沈堕の滝は船で越えられないため、滝の付近に蔵所を設け、人や物資を積み替えて通船していました。同じように魚も滝を越えることができず、アユなどの回遊魚はここより上流には登れませんでした。そこで、大正 2年にトンネルの魚道を設置することで滝の上流と下流をつなぎ、アユをさかのぼらせることに成功しました。その後、魚道のトンネルは岩の崩落により壊れてしまいましたが、右岸側の柱状節理の岩壁にその跡が残っています。



黄色い線の部分が魚道だったと考えられる

② 沈堕発電所跡

この沈堕の滝では、滝の落差を利用して、発電が行われています。明治 42年(1909)、滝の上に堰を作り、発電をはじめました。電気は大分・別府間の路面電車に送られ、日本の近代化に役立てられました。その後、堰の高さはさらに上げられ、安定した電力の確保が実現しましたが、一方で、電力の確保と引き換えに落水しなくなったことで、鎮田瀑図に見られるような美しい景観を失ったのです。

※現在の発電所は 2kmほど下流に移されています。



旧発電所操業時

修景工事

地域の方々はこの滝の復活を切に願っていました。

ただの岩壁と化していた滝は、平成8年(1996)、ついに復活。九州電力の手により崖がこれ以上崩落しないよう大がかりな修景工事を行い、さらに雪舟の描いた鎮田瀑図を参考に「垂直分かれて十三条をなす」と表された滝の姿がよみがえりました。



落水のない頃の沈堕の滝



巨匠が描いた名瀑



雪舟画「鎮田瀑図」（複製）豊後大野市資料館蔵